（景気動向調査資料）　　2026・6・7

厚木商工会議所　　2025 年度（令和 7 年度）中小企業景気動向調査報告書
2025 年度を振り返って

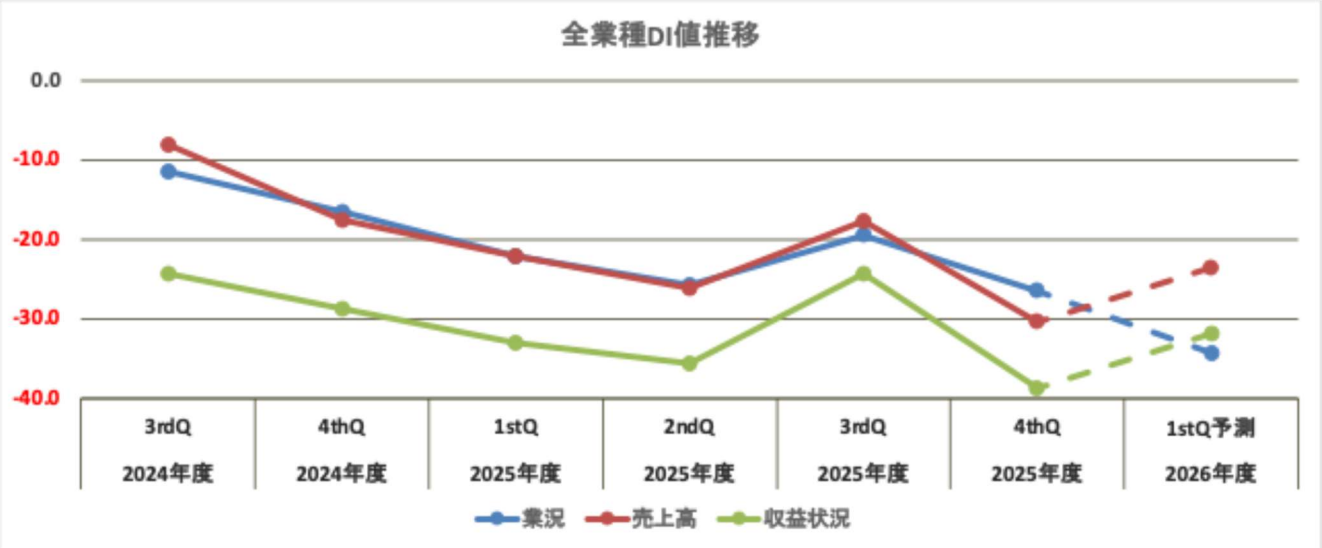
厚木商工会議所では、厚木市内中小企業のうち各業種（製造業、建設業、運輸業、小売業、飲食業、卸売業、不動産業、サービス業の 8 業種）ごとに無作為に抽出した事業所へ四半期ごとにアンケート調査を実施して参りました。

今回は、令和 7 年度分（2025 年度第 1 四半期～第 4 四半期）に実施した 4 回の調査を集計しましたのでその結果を報告いたします。

※各調査では、それぞれ 200～260 のご回答をいただきました。ご多用の中ご協力誠にありがとうございます。

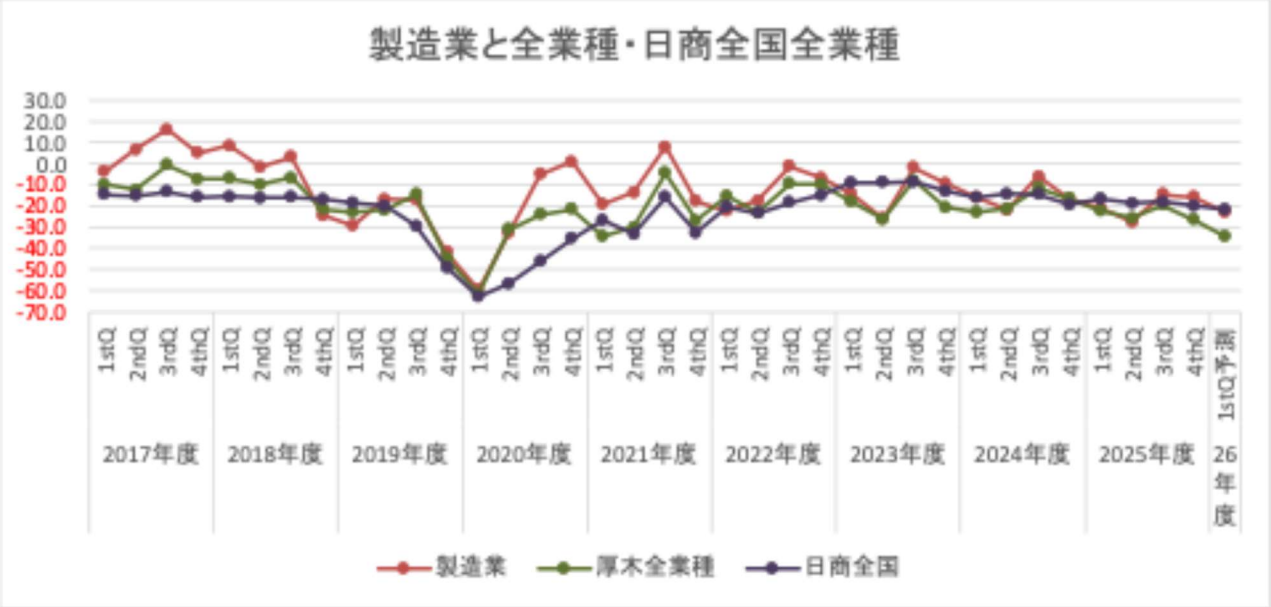
※報告書内で記載しております経過グラフでは、該当業種と厚木市全業種、日商 LOBO 調査全国平均のものをそれぞれ並べ関連性を参示しております。

１、**全業種**（上記市内 8 業種の総合 DI 値）



全業種 DI 値推移をみると、2024 年度第 3 四半期から 2025 年度第 2 四半期にかけて「業況」「売上高」「収益状況」いずれも減少傾向が続いた。2025 年度第 3 四半期で改善の兆しが見えたが、第 4 四半期ではいずれも最低水準まで減少した。新政権の発足への期待感と「ガソリン暫定税率廃止」や「電気・ガス代の支援」などの実施により個人消費の持ち直しがみられたものの、直後に中東情勢が緊迫化し、上向いたマインドを再び冷え込ませてしまったと考えられる。今後も中東情勢は不透明な状態が続くと思われるが、サプライチェーンの多角化やエネルギー価格高騰に負けない価格転嫁を実施していく必要がある。

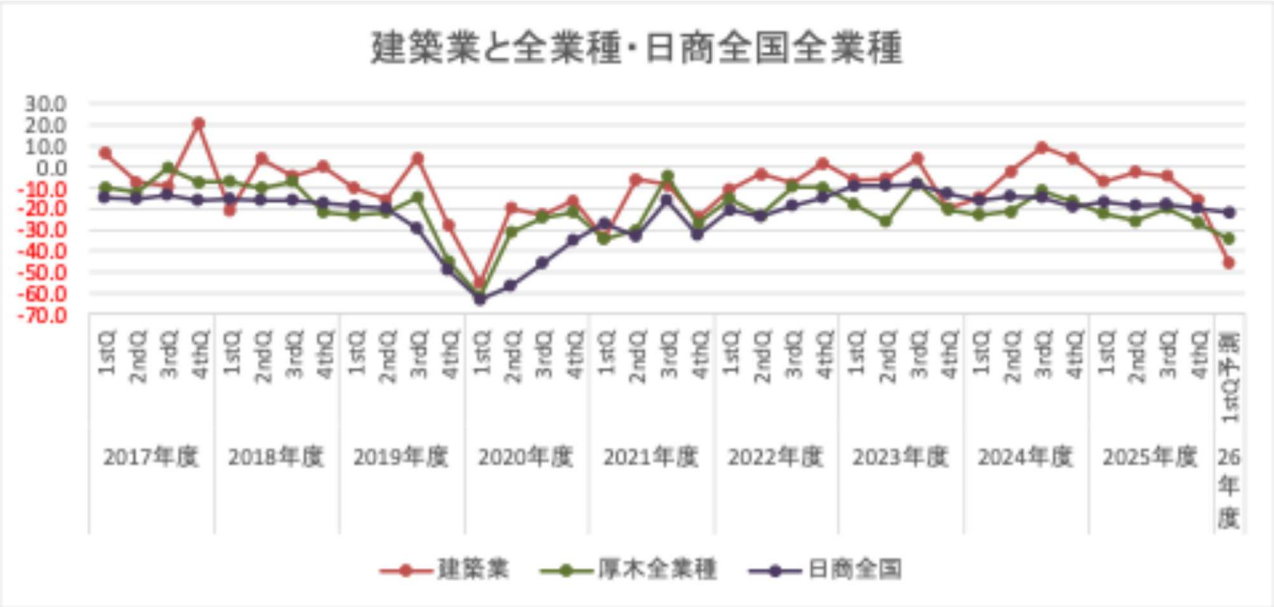
1）製造業



厚木市の製造業 DI 値は、2025 年度においても厚木市全業種と比較して概ね高い水準を維持して推移した。過去のコロナ禍による落ち込み以降、他業種より素早い回復を見せてきたが、2025 年度は第 2 四半期にかけて下落した。その後、第 3 四半期には一時的な回復を示したものの、第 4 四半期および 2026 年度第 1 四半期の予測値では再び下落傾向に転じており、足踏み状態となっている。

日商全国と比較すると同等の水準を保っているが、依然としてマイナス圏での推移が続く。コスト高騰などの変動要因が懸念される中、引き続き市内経済を牽引する役割が期待されるが、先行きの動向には注視が必要である。

2）建設業

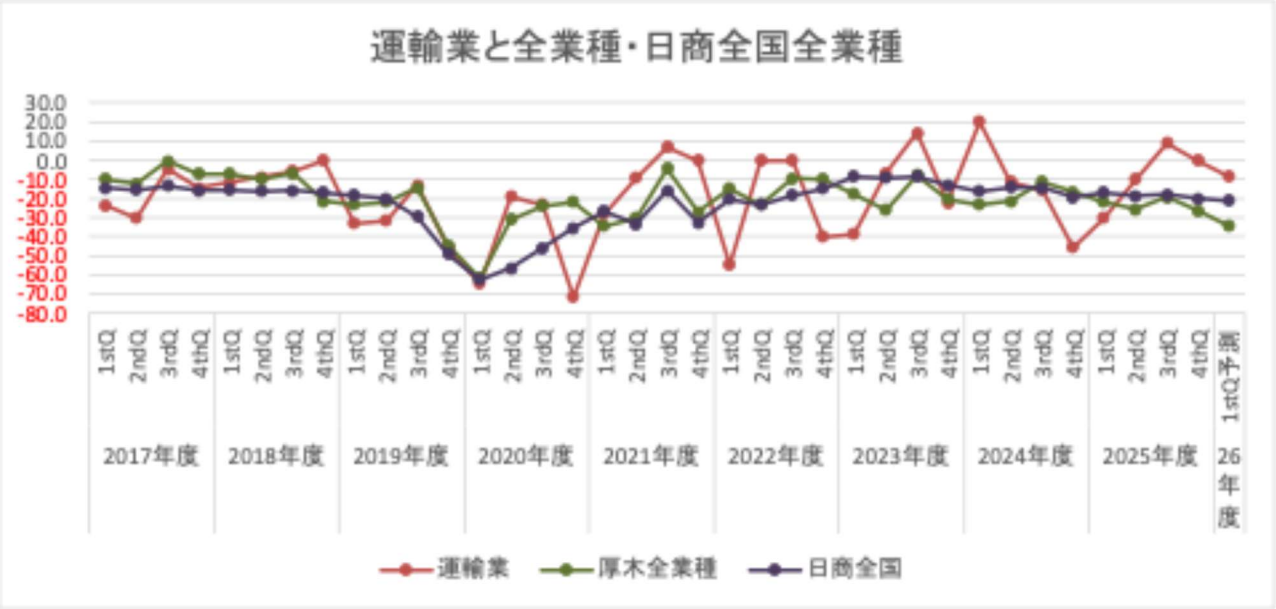


厚木市の建築業 DI 値は、2021 年度以降順調に推移しており、時折プラスになる局面も見られたが、2024 年度第 4 四半期以降は一転して下降トレンドに入ってきている。とはいえ、ここまで厚木全業種、日商全国をほとんどの期間で上回る水準で推移しており、力強さを見せてきていた。ところが、次期は大幅なマイナスを予測している。厚木全業種・日商全国を大幅に下回る水準の予測である。

県央地区の幹線道路開通による開発の恩恵が一巡し、人手不足や物価・金利上昇による民間需要の冷え

込みが原因と考えられる。民間・公共の受注バランスの調整や、業務の自動化・効率化による「損益分岐点の引き下げ」などの対策が急がれる。

３）運輸業

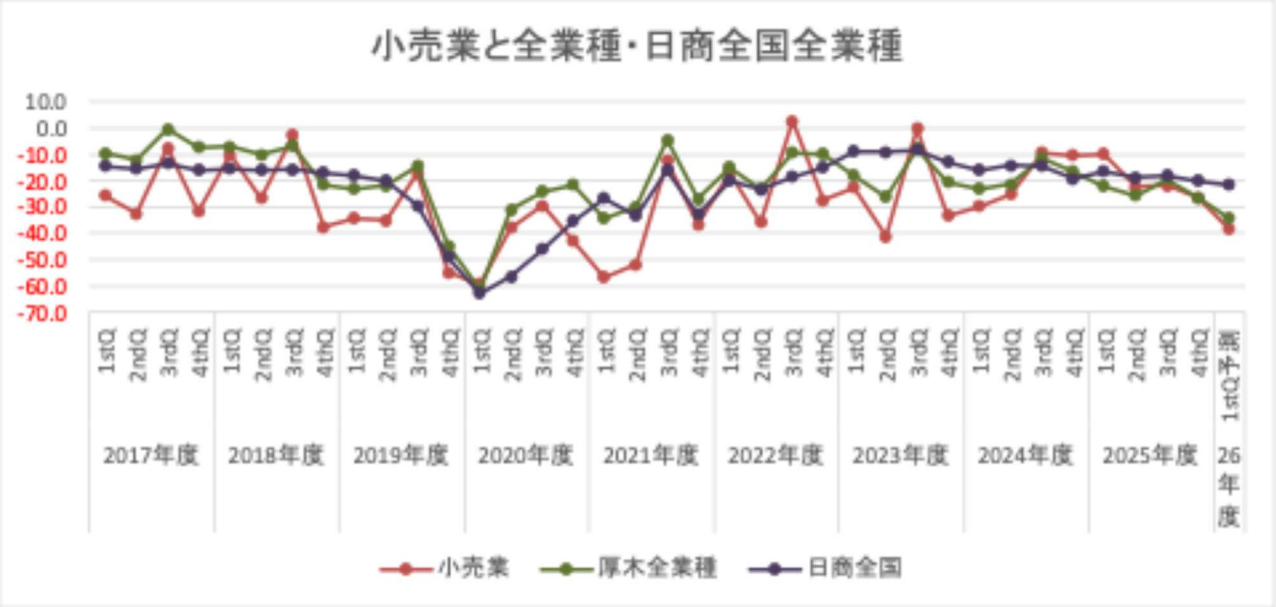


厚木市の運輸業 DI 値は、2025 年度においても厚木市全業種や日商全国全業種と比較して、極めて変動幅が大きいという例年の特徴が顕著に表れる結果となった。

2025 年度の推移を見ると、第 1 四半期に大きく落ち込んだ後、第 2 四半期から第 3 四半期にかけてはプラス圏に達するほどの急回復を見せた。しかし、第 4 四半期には再び下落に転じ、2026 年度第 1 四半期の予測値でもさらなる悪化が見込まれている。これは、年度始めや年度末に大きく落ち込み、中間期で持ち直すという過去にも見られた特有のパターンを繰り返していると言える。

このような大きな変動は、回答数の少なさによる統計的なバラツキに加え、顧客の需要変動による影響を受けやすいことが要因と考えられる。依然として燃料費の高騰や深刻な人手不足といった構造的な課題を抱えており、外部環境の波に耐えうる柔軟で計画的な経営基盤の強化が引き続き求められる。

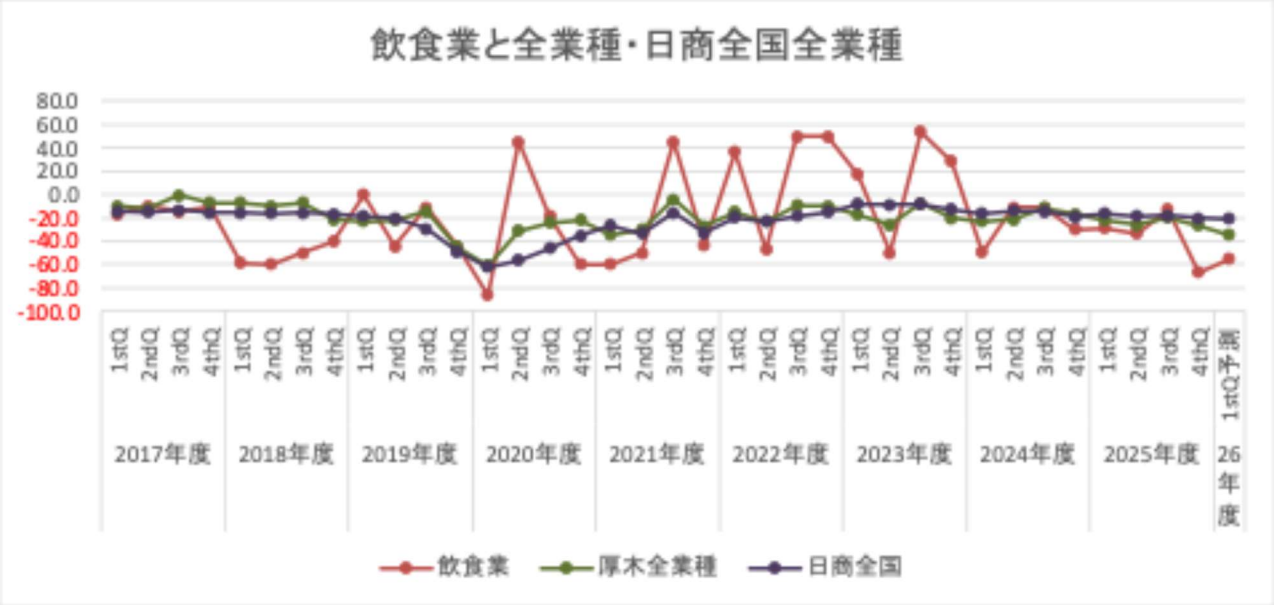
４）小売業



昨年度の後半から維持してきた比較的好調な業況は、今年度第 1 四半期までは継続していたが第 2 四半期

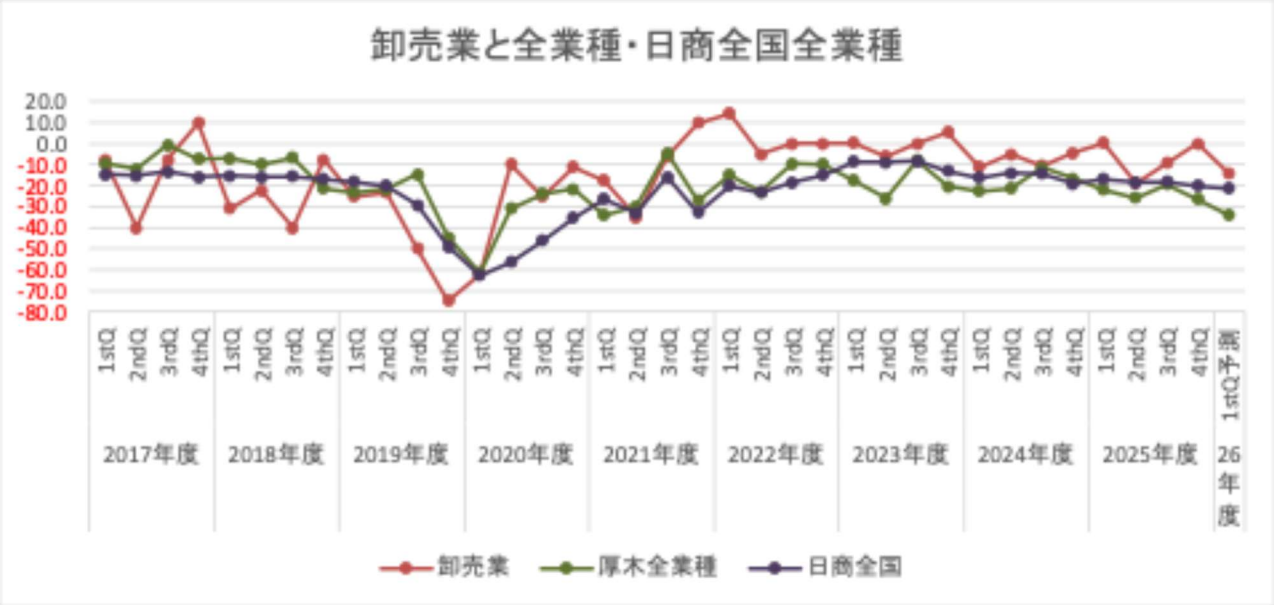
以降不調に落ち入り、来年度第 1 四半期の予測もさらに下落するという状況である。これは厚木全業種の傾向とほぼ同じであり、日商全国の LOBO データがなんとか好調を維持しているのに比較し特徴的である。このままコロナ禍と同じレベルに落ち込んでしまうのか心配なところである。

5）**飲食業**



昨年度の第 2 四半期から引き続き比較的安定的に推移してきた飲食業であったが、第 4 四半期で大きく業況は落ち込み、来年度の第 1 四半期の予測も好況を予測する向きは少ない。厚木全業種の状況や日商全国の LOBO データと比較しても、今年度の第 4 四半期の落ち込みは特徴的である。これが回答した企業による一時的なバラツキなのか、来年度の全体的な傾向となってしまうのか気になるところである。

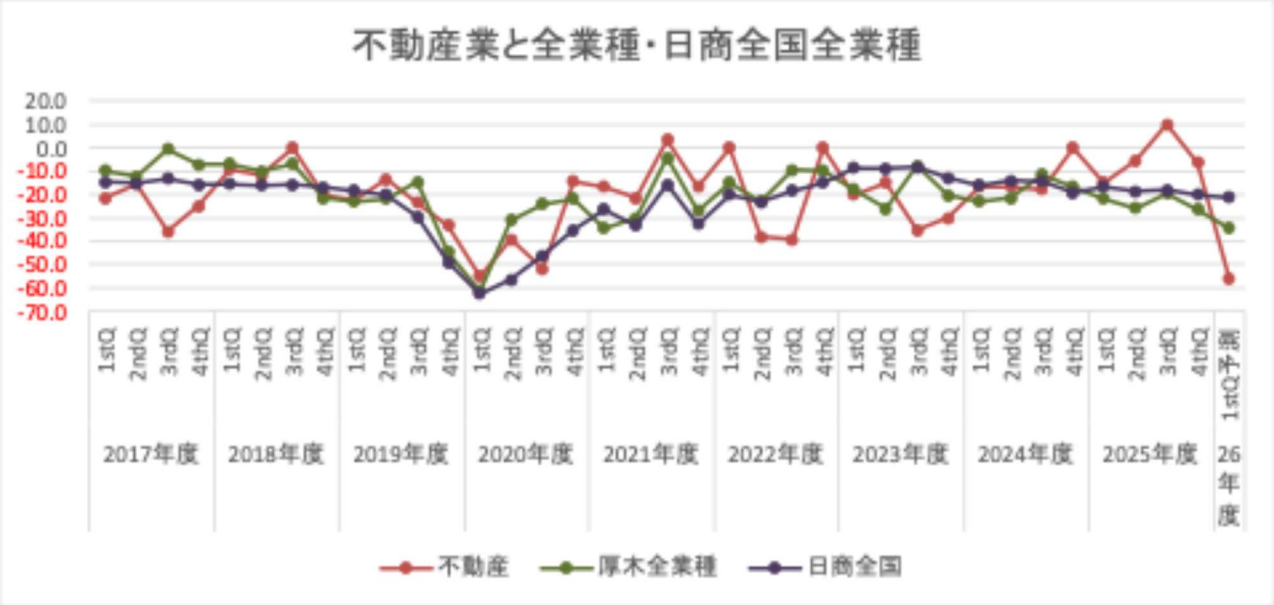
6）**卸売業**



厚木市の卸売業 DI 値は、2021 年度後半から 0 近傍を維持しており、時折プラスになることも見られるようになった。厚木全業種・日商全国平均と比べると、以前は下回ることが多かったが、2020 年度以降は概ね上回る水準で推移している。次期の予測は落ち込むことを予測しているが、それでも厚木全業種・日商全国平均を上回っている。

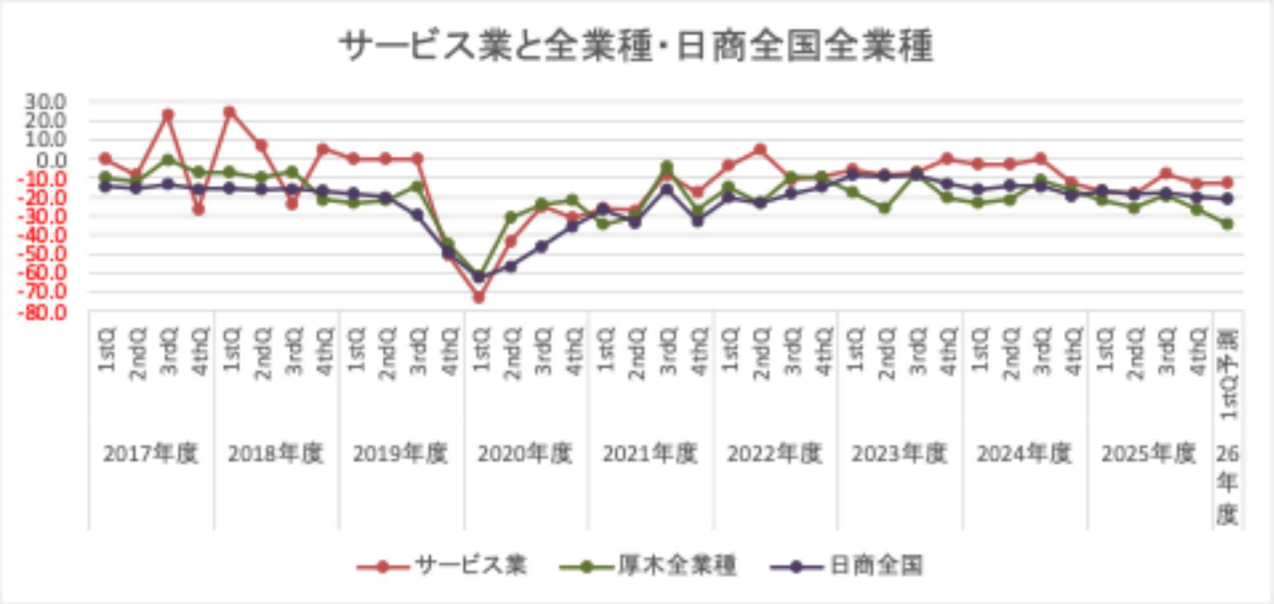
コロナ以前は景気の波に弱い業界構造であったことがうかがえるが、コロナによるネット通販の普及拡大や県央地区の物流インフラの完成などを機に、他業種よりも景気変動に強い業界体質に変わってきたことが感じられる。

7）不動産業



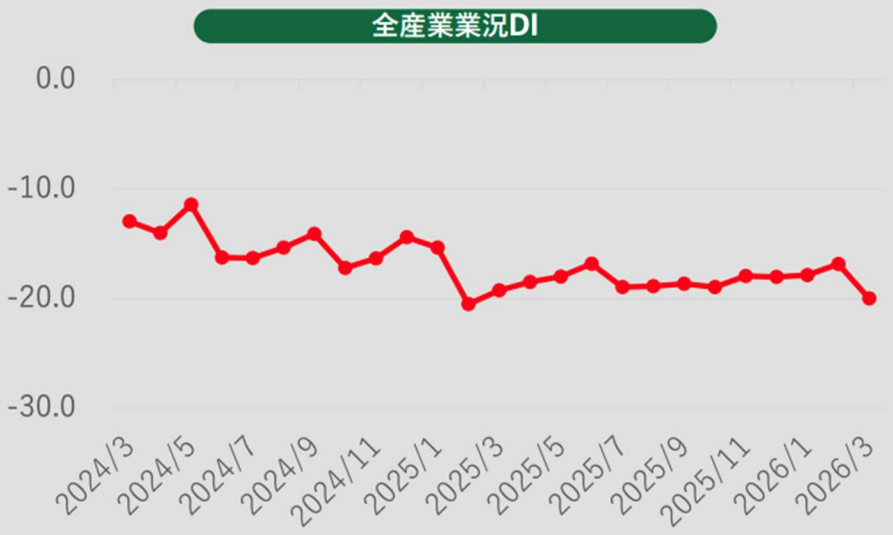
2022 年度・2023 年度は、厚木市全業種および日商全国全業種に比べ、大きな下落を示すことが複数期であったが、2024 年度を見ると同等レベルであり、第 4 四半期では大きく上回っている。2025 年度では期を通して良好な値を示している。特に第 3 四半期の DI 値は 10 ポイントもの値となっている。しかしながら一転して 2026 年度 1 期目の業況予測では▲56.3 を示している。不動産業では次期予想は概して下降傾向が示されているが、極端な予測値となっており、大きく外れることを願ってやまない。

8）サービス業



サービス業の業況は、コロナ禍であった 2020 年度の第 1 四半期を除き、総じて厚木全業種・日商全国全業種の DI 値を上回る結果となっている。2025 年度も第 1 四半期、第 2 四半期こそ日商全国と同等の DI 値であったが、その後は上回る結果となっている。2026 年度第 1 四半期の予測では▲13.0 となっており、依然として厚木市全業種、日商全国に比べいくらかであるが優位を示している。

（参考資料）（日商 2026 年 3 月 31 日付 LOBO 調査結果より抜粋資料）



業況DI　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	2025年	2025年			2026年			先行き見通し
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月
全産業	▲ 19.2	▲ 18.9	▲ 17.9	▲ 18.0	▲ 17.9	▲ 16.8	▲ 20.0	▲ 21.5
建設	▲ 15.6	▲ 13.5	▲ 16.5	▲ 14.7	▲ 15.2	▲ 13.6	▲ 15.5	▲ 17.6
製造	▲ 24.7	▲ 21.0	▲ 19.7	▲ 21.6	▲ 17.2	▲ 13.6	▲ 19.1	▲ 21.6
卸売	▲ 17.6	▲ 24.2	▲ 24.7	▲ 23.4	▲ 23.8	▲ 23.5	▲ 30.2	▲ 31.9
小売	▲ 23.1	▲ 29.3	▲ 26.4	▲ 24.0	▲ 25.1	▲ 24.8	▲ 25.1	▲ 24.0
サービス	▲ 13.9	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 9.9	▲ 12.1	▲ 13.0	▲ 15.1	▲ 17.3

※　…1.0ポイント以上改善　…1.0ポイント以上悪化

以上